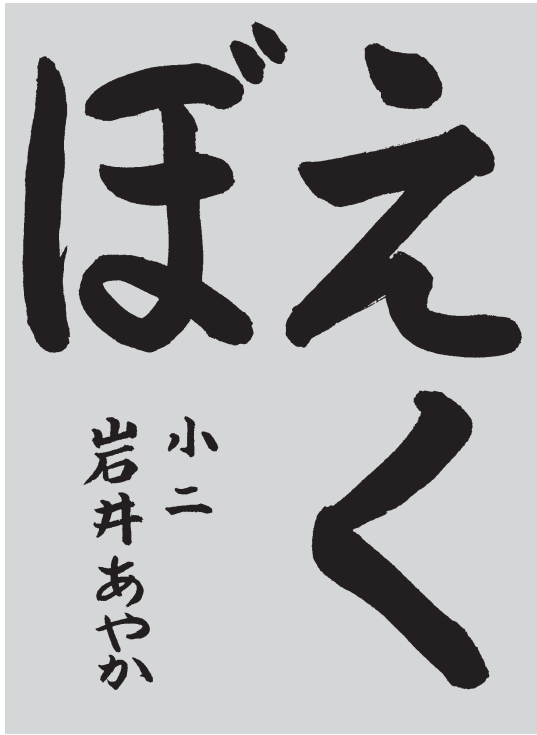


〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(硬筆も同じ)

小学2年参考手本

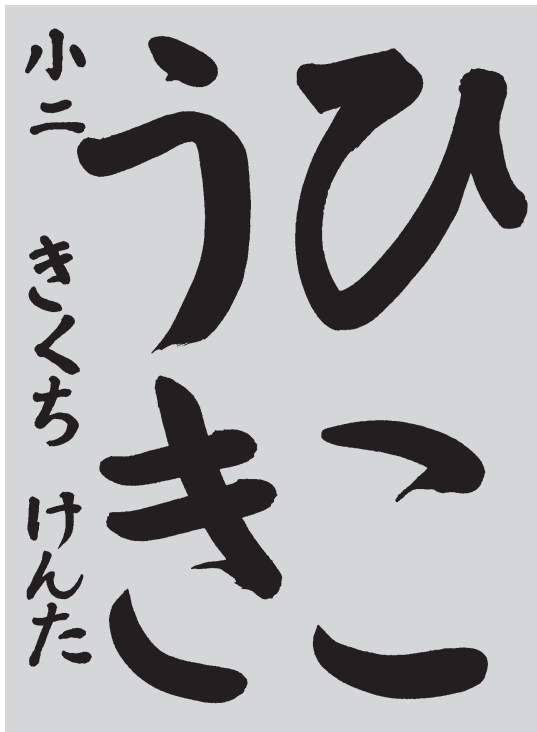


阿部 蕙 芳 先生

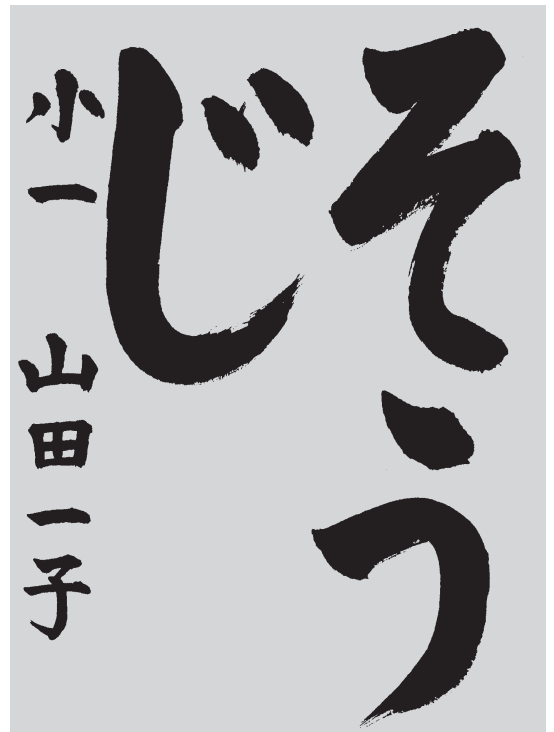
幼・小学1年参考手本



山合 祥 華 先生



佐藤 幽 香 先生



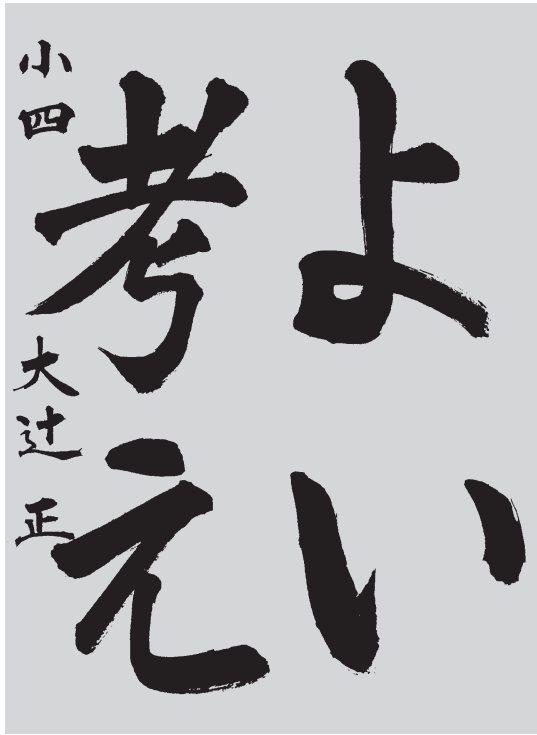
加藤 眺 溪 先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

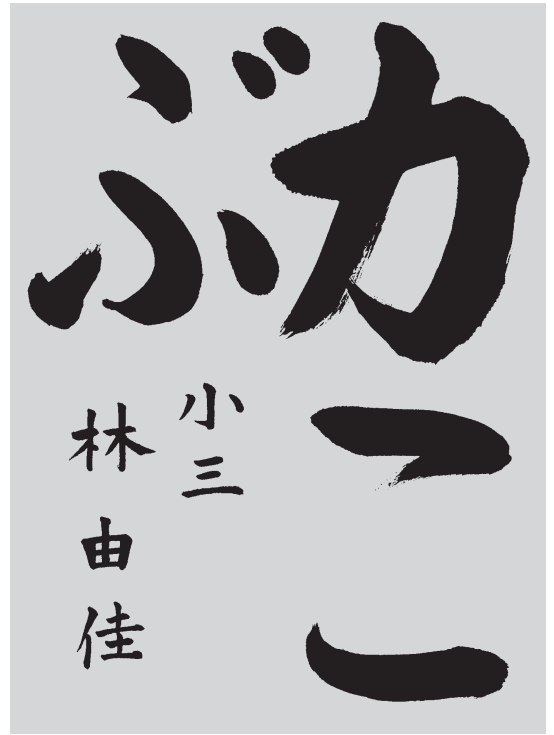
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(硬筆も同じ)

小学4年参考手本



浜谷芳仙先生

小学3年参考手本



広瀬舟雲先生



小浜大明先生



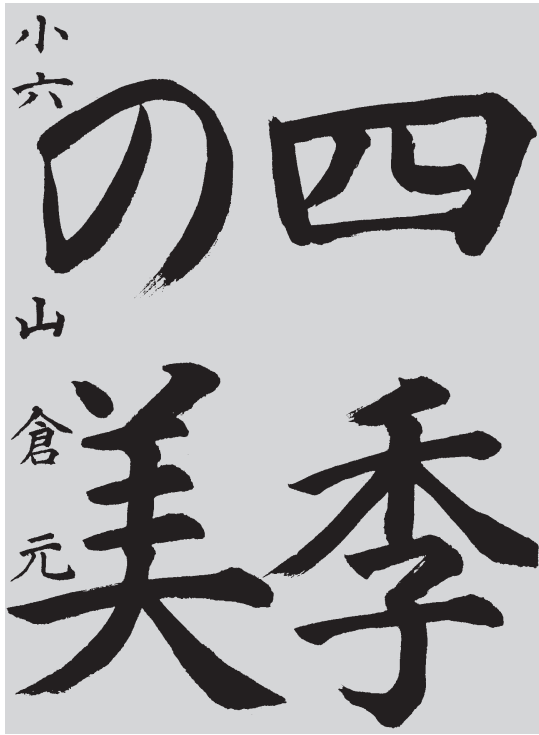
砂本杏花先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

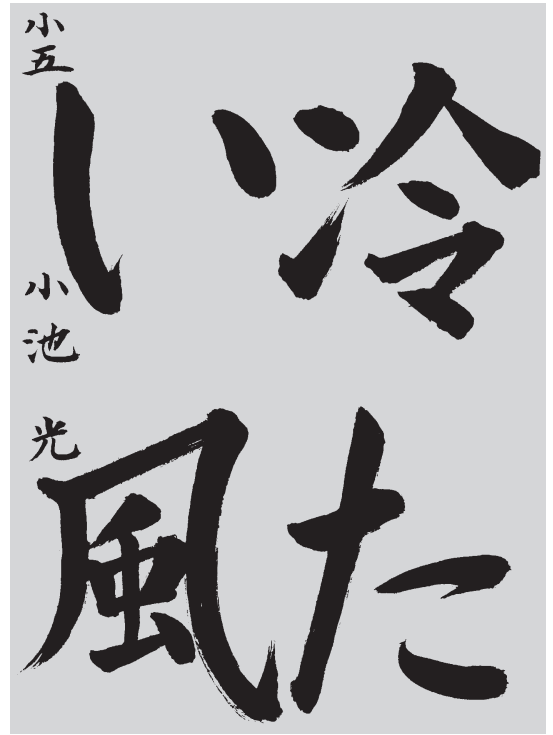
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(硬筆も同じ)

小学6年参考手本



村山元信先生

小学5年参考手本



小池蹊舟先生



辻元大雲先生



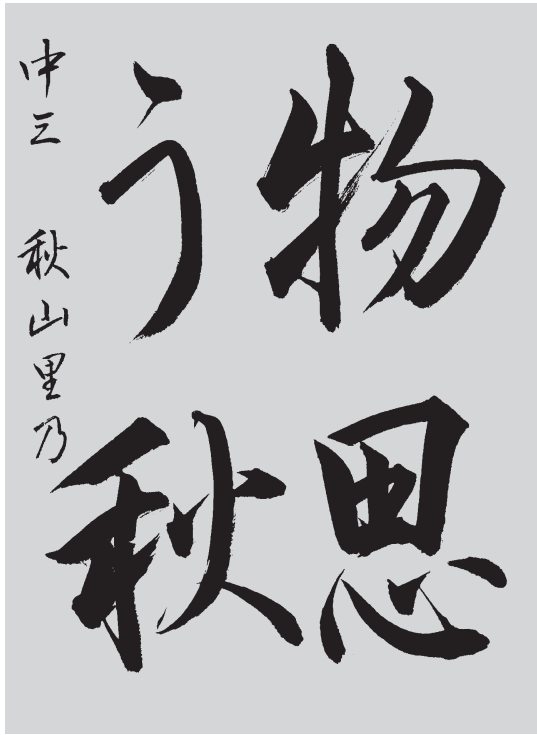
恩地春洋先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

（幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。）

※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（硬筆も同じ）

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



飯高和子先生



西林乗宣先生



市川蘭華先生



大野祥雲先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中学生

小学6年

支 部 名				
段・級				
学 年	中二			
名 前	三浦 千菜			

収蔵されています。

や孫過庭・顔真卿の真蹟などが

台湾の故宮博物院には甲骨文

支 部 名				
段・級				
学 年	六			
名 前	紺野 翼			

深海にもぐります。

フは、光の届かない

海底調査船バチスカ

蔵 収 蹟 真

息長く気持ちをつづけて

四画目「はらい」を「とめる」

「へん」「つくり」のバランスに気をつけて

九画の払いを止め

『台湾の故宮』
画数の多い漢字の字形を正しく整えて書きましよう。
〈簡単な行書〉



「へん」と「つくり」の組み合わせ横分間に注意。



三画目と七画目が左右つりあうように



折れ折れ
折れ
折れの方向に注意

『海底調査』
字形を正しく、字配りよく書きましよう。

学習指導要領・国語（書写）抄録

（平成20年3月28日告示）

	小学校	第1学年 及び 第2学年	ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。
	小学校	第3学年 及び 第4学年	ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。
	小学校	第5学年 及び 第6学年	ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
	中学校	第1学年	ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。
	中学校	第2学年	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。
	中学校	第3学年	ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

3年	力	リョク リキ ちから	㇀ 力
4年	考	コウ かんが・える	一 十 土 𠂔 𠂔 考
	駅	エキ	丨 冫 冫 𠂔 馬 𠂔 駅
5年	冷	レイ つめ・たい ひ・える ひ・や ひ・やす ひ・やかす さ・める さ・ます	冫 冫 冫 冷
	風	フウ フ かぜ かざ	丨 几 几 冫 風 風
6年	季	キ	二 千 禾 季 季
	美	ビウ うつく・しい	丩 𠂔 𠂔 𠂔 美 美
	鳥	チョウ とり	ノ 丨 冫 冫 冫 鳥 鳥
中学	養	ヨウ やしな・う	丩 𠂔 𠂔 美 養 養
	成	セイ ジョウ な・る な・す	丨 厂 𠂔 成 成 成
	源	ゲン みなもと	冫 冫 冫 源 源 源
	辞	ジ や・める	二 千 舌 𠂔 𠂔 辞

行書を学ぼう (159)

(中学生の課題より、恩地春洋先生書)



行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

ひらがなの字源 (159)

か	な	の	り	ま	だ	ひ	
加	奈	乃	利	末	太	比	源字
か	な	乃	り	ま	だ	ひ	字形
か	な	の	り	ま	だ	ひ	

※源字については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
 ※字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

書写教育
 全国大学書写書道教育学会編より転載

12月8日締めきり

第34回「書の教室」書初め誌上展

出品規定の要旨

一、作品

- (1) 紙の大きさ——小画仙全紙 $1\frac{1}{4}$
(たて約70cm×よこ約35cm)
- (2) 文字——課題文字による
- (3) 書体——小学生は楷書
中学生は楷・行書
- (4) 名前の書き方——「学年」「氏」「名」を本人が書く。(幼・小一は学年を書かなくてもよい。)

二、出品手続

- (1) 出品票——所定の様式
- (2) 出品料——一点 六〇〇円
- (3) 締めきり日——22年12月8日(水) 必着
- (4) 出品目録——所定の様式
- (5) 出品点数——一人一点
(個人一点でも出品可能)
- (6) 出品先——全日本学校書道連盟
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

三、審査

個人賞——大賞、準大賞、新春賞、会長賞、副会長賞、連盟賞、他

団体賞——優勝、準優勝

四、成績通知

明年1月7日(金)
「書の教室」誌上(3月号)に、上位の方は写真を、特別賞の方は氏名を発表。

五、作品の返送は無料。

※お問い合わせは、全日本学校書道連盟書初め誌上展係へお願いします。

課題

- 幼・小一年生用 「くさ」 「みち」
- 小学校二年生用 「かめ」 「はな」
- 小学校三年生用 「ゆき」 「大空」
- 小学校四年生用 「子馬」 「向上」
- 小学校五年生用 「平野」 「努力」
- 小学校六年生用 「交流」 「実行」
- 中学校一年生用 「初心」 「成功」
- 中学校二年生用 「志望」 「前進」
- 中学校三年生用 「誠実」 「真理」

※昨年(第33回書初め誌上展)出品された先生には、出品に必要な書類一式を募集規定と一緒に10月中にお送りする予定でおります。

※新規出品される先生は、電話か文書(ハガキもしくはFAX)にてお申し出ください。

なお、書道芸術院の審査会員の先生には、募集規定のみお送りいたします。

編集余録

○今年(ことし)は猛暑(まうしよ)だったので秋(あき)の訪(き)れはいつもより少し遅(おそ)いようです。近頃(ちかごろ)ようやく秋(あき)の気配(きはい)を朝晩(あさばん)の涼(すず)しさから感じ(かん)じます。ほっと一安心(いっあんしん)という気持ち(きもち)です。音楽(がく)を聴(き)いたり、好きな言葉(ことば)を筆(ふで)で書(か)いたり、美術館(びじゅつかん)に行(い)ったりして芸術(げいじゆつ)の秋(あき)を楽し(たの)んでみてはいかがですか。

○早い(はやい)ものですね。今月号(こんげつごう)には第34回(だいさんじゅうよっかい)「書の教室(しょのきやうしつ)」書初め誌上展(しょくめしじょうしん)の要項(ようけい)を掲載(けいざい)しています。書初め(しょくめ)はお正月(おしょうげつ)の恒例(こうれい)行事(こうじ)ですが、この誌上展(しじょうしん)はちょっと先取り(さきどり)で作品(さくひん)の締め切り(しめぎり)は12月8日(じふにがつはち)です。盛り上(さか)り上がった誌上展(しじょうしん)を目指(めざ)しています。誌友(しゆう)の皆さん(みなさん)、力作(りきさく)を多数(たうすう)お寄せ(よ)してください。それから、秋季(しゅうき)昇級(しやうきゅう)試験(しけん)の締め切り(しめぎり)も間近(まぢか)に迫(せま)りました。10月8日(じふにがつはち)必着(ひつじやく)ですので十分(じゅうぶん)に準備(じゆんび)をして提出(ていしゆつ)してください。

○我が家(わがや)のプランター(ばんたー)の田んぼ(たんぼ)の続編(ぞくへん)です。今年(ことし)は実(み)りの秋(あき)を迎(むか)える事(こと)が出来(でき)ました。日(ひ)の光(ひかり)で銀色(ぎんいろ)に輝(きら)く稲穂(いねほ)の刈(か)り取り(と)りも終(お)りました。稲(いね)の成長(せいじやう)を春先(はるさき)から観(かん)察(さつ)していると、人(ひと)を育て(う)るのと良(よ)く似(に)ています。雑草(ざっそう)を取(と)ったり、肥料(ひやし)と水(みづ)を定期的(ていじきてき)に欠(か)かさず(さ)ずにあけて環(かん)境(きやう)を整(ととの)える。秋(あき)近(ちか)くなると穂(ほ)先(さき)がスーッと伸(の)びて段々(だんだん)と実(み)が充(み)実(じやく)していく。実(み)がいっぱい(いっぱい)になると頭(あたま)を垂(た)れる。こんな句(く)を思(おも)い出(だ)します。

「実(み)るほど頭(あたま)を垂(た)れる稲穂(いねほ)かな」社会的(しやかいてき)地位(ちい)や年齢(ねんれい)を重ね(か)ねて行(い)けば行(い)くほど人(ひと)に対して(たいして)謙虚(けんこ)に頭(あたま)を下げ(さ)げられる。そんな生き方(いきかた)が良い(よい)、まさに(まさに)人生訓(じんせいきん)であります。(鄭街(ていがい))

